

# 統合準備委員会ニュース第2号

平成14年(2002年)8月6日発行

竹見台小学校・南竹見台小学校統合準備委員会  
委員長 田辺妙子

## 統合後の学校をどんな学校にするのかを検討しています！

7月24日(水) 第3回竹見台小学校・南竹見台小学校統合準備委員会を開催し、統合後の学校をどんな学校にするのかについて意見を出し合いました。委員からは次のような意見が出されました。(意見の中には、PTAのアンケートで寄せられたもの、学校やPTAで話し合われた内容を報告したものもあります)

### 1 教育内容等に関すること

- ・ 英会話に力を入れる。
- ・ 1年から6年までの縦割りで良い人間関係が築けるようにする。
- ・ 21世紀は環境・国際化の時代であり、環境教育や国際理解教育などに力を入れる。例えばエコスクールなども考えられる。生産体験学習を地域との連携の中で行うこともできる。
- ・ 小学校・中学校の9年間を見通したカリキュラムを作成し、小中高の一貫を意識した教育を進める。
- ・ 小学校において教科担任制や中学校の先生による出前授業の実施、卒業生の相談を受ける体制づくりをする。
- ・ 小中一貫教育をするのであれば、国際感覚を身につけ、話せる英語が身につくような教育をする。
- ・ インターネットの活用や国際理解教育などにより、世界にはばたく子どもを育てる。
- ・ 小学校1校・中学校1校になることを生かし、縦のコミュニケーションを図ることを考える。総合的な学習でも9年間を見通した取組みができる。また、スポーツの面でも交流を行い、小学校で好きになったものを中学校でも続けられるようにできればよい。
- ・ 小学校低学年と高学年、さらに中学校も含めた交流(兄弟学級)をする。

### 2 学校施設・設備等に関すること

- ・ トイレの改修、ランチルームの設置。プールを学校敷地内に移設してほしい。
- ・ コンピュータは40台使えるようにし、情報教育に力を入れる。
- ・ 学校の新設が無理であれば大規模改修を行う。例えば、竹見台小学校の方を使用するのであれば当面南竹見台小学校の施設を使い、その間に竹見台小学校の改修を行う。
- ・ エレベーター設置、図書室・運動場・給食設備などの整備、オープンスペースも頭に入れて整備する。
- ・ 竹見台小学校・南竹見台小学校で育ち卒業した人たちもいる。その歴史を残す資料室のようなものを考える必要がある。
- ・ 竹見台の街づくりを考えていく中で、どの校舎を使うのかという話にもなる。具体的にシミュレーションを出しながら検討する必要がある。教育委員会が構想を示し、そこに

地元の要望を入れていくというようにすべきではないか。

- ・ 新たな学校づくりということであれば、ソフト面だけでなくハード面でもどんな施設を作っていくのかというビジョンを教育委員会に出してもらいたい。
- ・ 統合するから半分の学校施設は使わないというのはおかしい。あと半分の施設が学校関連の施設ということであればまだわかるが。
- ・ 学校施設を半分だけ使うということだけでなく3分の2であってもいい。跡利用もひっくり返して考えてほしい。
- ・ ハード面は早急に考える必要がある。跡利用は教育に関係するものというようなしばりを作っておかないといけないのではないか。

### 3 学校体制等に関すること

- ・ 統合しても1学年1学級という状況であればメリットがない。クラス替えができるように複数学級を確保できるようにしてほしい。
- ・ 教育委員会には、人的な面での配慮をお願いしたい。
- ・ 切望されているのは少人数学級である。必要不可欠な課題であり、結果的に納得できるよう教育委員会に努力してほしい。
- ・ 統合しても1学級にしかならない学年があることが問題になっている。制度的に決められたものであっても何とかできるよう最大の努力をしてほしい。

### 4 その他

- ・ 学校名に竹見台を残してほしい。
- ・ 子どもが主役であり、子どもの意見も取り入れてほしい。
- ・ 子どもができるだけ早く仲良くなれるように2学期以降交流を進める。まず、学年レベルで、給食交流や遊びを中心とした交流ができるのではないかと考えている。
- ・ 交流をどんどんやってほしい。
- ・ 来年4月実施ということになると予算の問題もある。早急に検討が必要なものと時間をかけて検討するものに分ける必要がある。教育委員会としてのビジョンを出してほしい。また、他都市の資料も提供してほしい。
- ・ 竹見台に新しい学校をつくることは吹田市に新しい学校をつくることにならなければならない。

教育委員会からは、統合後のモデル校づくりについて、統合すれば竹見台地区に小学校・中学校が1校ずつになることや小・中学校が隣接しているという立地状況、これまで小中連携の取組みを推進してきた経緯なども踏まえて、9年間を見通した小中一貫教育の研究を推進し、市内各小・中学校に情報を発信するモデル校にしたいという考え方が示されました。また、委員から出された意見に対しては、新しい学校づくりにどのように盛り込めるかを考えたい、学校施設の整備等については、現段階で具体的に答えることは難しいがトータル的に見て一定の考えは示したい、他都市の資料で把握しているものについては提示する、跡利用の問題については、使わなくなった学校は市長部局に返すことになるので教育委員会だけでは決められない、との回答がありました。

今回は、8月28日(水)の午後8時から開催する予定です。